2020.1

vol.5

特集
加島・三津屋地域
住民送迎事業

クローズアップ ui

ゆうあい

誰もが自分らしく
安心して暮らせる
温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人加島友愛会

http://www.kashima-yuai.or.jp

第2次レインボープランは地域福祉の更なる充実と社会貢献を目指し量的質的拡大路線を推し進めることとなるでしょう。

社会福祉法人加島友愛会
理事長
平田 純博

新年明けましておめでとうございます。皆様には、本年が穏やかで幸多い一年でありますようご祈念申し上げます。

本年3月には「人の世に熱あれ、人間に光あれ」との理念のもと当法人が設立され29年を迎えます。皆さまには昨年同様、当法人の社会福祉事業のご利用とご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年は第1次「加島の社会福祉レインボープラン10年計画」がサービス付き高齢者向け住宅『ファミール・シャルレ』の開設をもって終了いたしました。

この10年、介護付き有料老人ホーム『リュミエール加島』、障害者グループホーム及び高齢者・障害者ホームヘルプセンター『トレフル』、豊中市の障害者就労継続A型事業所『ル・プラス』、第2次レインボープラン実現用地としての旧加島人権文化センターの取得、地域住民無料送迎事業など、地域住民の方々をはじめ皆さまのご支援ご協力、そして法人職員の精励の賜物と重ねてお礼申し上げます。

第1次レインボープランが始まる2009年度と2018年度を比較すると、福祉サービスをご利用された延べ人数（件数）は116,486人から165,839人へと増加し、地域的にも加島・三津屋地域から大阪市内北東部、豊中市、吹田市、尼崎市、伊丹市、宝塚市と広まってきました。

福祉サービスの質については、絶えず施設・住居・労働の環境改善を図りながら、人手不足の中で現場従業員の精励により利用者ご家族に満足いただける介護・支援を維持できていると思っております。

事業収支も総収入12億2,071万円から19億448万円と増加し、経常収支差額（剰余金）は1億4,175万円から1億7,409万円と安定的に推移しております。資産は26億5,348万円から本年9月中間決算では38億256万円（負債を差し引いた純資産は27億3,085万円）と増加しました。

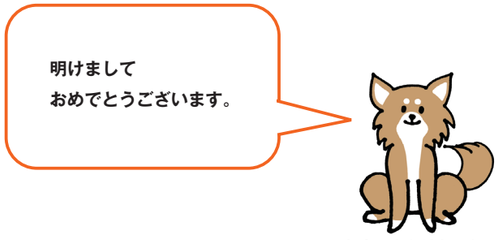
従業員数も本務職員・常勤職員・非常勤職員合計248人から2018年4月には346人と増え、現在の本務職員の年収は平均約475万円となっています。

第2次レインボープランは地域福祉の更なる充実と社会貢献を目指し、量的質的拡大路線を推し進めることとなるでしょう。

新年は、高齢・障害だけでなく地域の福祉ニーズをもとに、他法人の福祉事業の調査研究、専門家の意見など法人内外の知見を取り入れ、第2次レインボープランの計画策定を中心に必要な事業用地取得を図りながら、福祉の町づくり『誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会』を目指していく決意です。

皆さまのご多幸を祈念申し上げ、重ねて皆さまのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ新年のごあいさつといたします。

昨年９月開業のサービス付き高齢者向け住宅　ファミール・シャルレ



加島のあかりちゃん

この1年は「期待以上」部門、事業を超え横へつながる次の課題は利用者へのフォーカス

社会福祉法人加島友愛会
専務理事
酒井大介

手にとってもらえる冊子に

酒井　新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご指導、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

――旧機関誌『かしま友愛』をリニューアルして1年。当初の思いは誌面に反映されていますか?

酒井　新たに現場の職員で編集委員会を立ち上げ誌面作りをしていますが、当初の期待を超える出来映えです。読者や関係機関の方々からも「すごくよくなった」「がんばってるね」などの声もいただき、手応えを感じています。

――発行回数を年4回に増やしオールカラー。内容的には現場スタッフへのインタビューや座談会が増えています。

酒井　まずは手にとって「開いてみよう」と思える冊子にしたかった。リニューアル以前も「読んでみたらとてもよかった」という記事はあったのですが、読んでいただけなければそれも宝の持ち腐れです。そして冊子を開くところまでいったら次はスーッと最後まで読めるような文章であって欲しい。その点、会話でやりとりする方が読みやすいし伝わりやすい。以前はインタビューといっても新入職員の自己紹介程度のものしかなかったですからね。

――新しい誌名のとおり「クローズアップ」もできていますか?

酒井　以前は、この施設でこんな行事やりましたというような切り口の記事がほとんどでした。事業の数が多いですから、それを集めるだけでは総花的になり魅力ある機関誌になっていなかったと思います。リニューアル後は、焦点を絞ることで深く掘り下げられるようになりました。職員にとっても違う施設や事業部門でどんなことをしているのか、どういう職員がいてどんなことを大切に考えているかとか、よくわかるようになったと思います。私自身、職員一人ひとりが日常生活や子育てをしながら、こういう風に考え、仕事のやりがいも見つけながら働いているんだなと、気付かされながら読んでいます。

利用者の「クローズアップ」へ

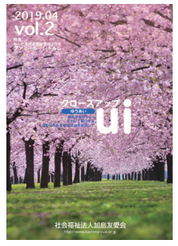
――編集委員会を立ち上げた効果はありましたか?

酒井　加島友愛会には高齢部門と障害部門があり、さらに施設ごと事業ごとに運営をしていますが、今まで共同で一つの事に取り組むことはあまりありませんでした。編集委員会の立ち上げをきっかけに現場で日々支援に従事しているスタッフや中間管理職が法人全体のことを教えあったり話しあったりするようになりました。スタッフ同士の横の風通しまでよくなるとは当初は想定していませんでしたね。

――「ui」2年目の課題は何でしょう?

酒井　この1年は各施設、事業とそれに従事する職員にスポットが当たってきましたが、今年は利用者にも焦点を当てる機会を増やして欲しいですね。「私たちはこういう支援をしました」というものはあるが、利用者自身の話を聞く、1日を追いかけるという切り口があってもよいと思います。まだリニューアルして4号なのであれもこれもとは言えませんが、今後に期待したいです。そして来たる2021年には法人設立30周年を迎えます。加島友愛会全体が盛り上がるためにも法人設立30周年に向け本誌がより一層活躍してもらいたいですね。

クローズアップ ui vol.1



クローズアップ ui vol.2

クローズアップ ui vol.3

クローズアップ ui vol.4

加島・三津屋地域住民送迎事業は公営バス事業の路線廃止による移動困難者に送迎車運行によるインフラ整備を通して、住民生活の利便性向上、福祉の充実を図ります。

本紙 vol.5 では、加島友愛会の地域貢献事業である
加島・三津屋地域住民送迎事業を紹介します。
2015 年大阪市淀川区の運営する
路線バス（通称 赤バス）が廃止となりました。
加島・三津屋両町会の要望より、高齢者、
障害者を中心とする移動困難者に向けて
2017 年より車両 2 台による移動支援の事業を提供しています。

加島のひかるくん

住民送迎事業の目的

事業の目的とする３つの支援

- 外出支援
- 通院支援
- 行政手続支援

事業の目的は、赤バス（大阪市営バス）廃止の影響による加島・三津屋地域に住む高齢者、障害者などをはじめとする移動困難者に対し、車両を使い自宅付近から下記への移動の支援を行います。

十三市民病院…通院支援
十三駅……外出支援
淀川区役所……行政手続支援

加島のあかりちゃん

住民送迎事業の概要

- 会員制
- 平日 1日８便
- 無料

会員条件❶

加島または三津屋連合振興町会
いずれかの区域内に住所を有する方

会員条件❷

1. 満70歳以上の方
2. 障害者手帳（身体・療育・精神）をお持ちの方
3. 妊産婦、または乳幼児連れ（4歳未満）の保護者の方
4. 上記1～３の介助人、付添いの方

乗車には会員条件❶❷を満たす必要があります。

会員申し込みの流れ

①申請予約　（社福）加島友愛会の住民送迎事業担当者宛にお電話ください。TEL.06-6101-6601（代）

②来館　代理者による申請が可能です。代理申請や来館が困難な場合は訪問も行います。ご相談ください。

③事業説明　事業内容を理解し、会員規約を遵守できる方は申請可能です。申請後、約2週間で会員証を郵送します。

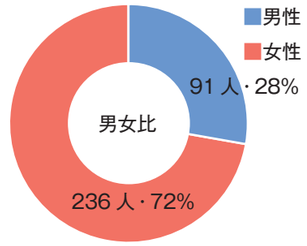
④利用開始　会員証が届きましたら利用開始です。

住民送迎事業の状況（2019 年 10 月現在）

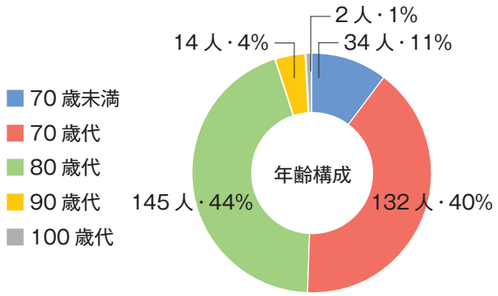
会員数 327 人

2018 年度 延利用数 2756 人

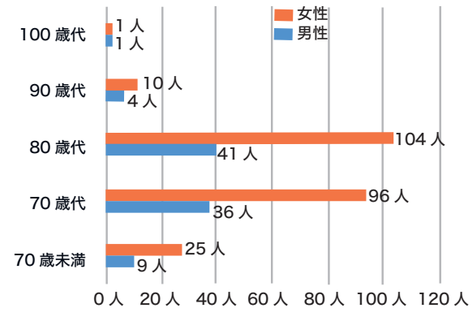
男女比



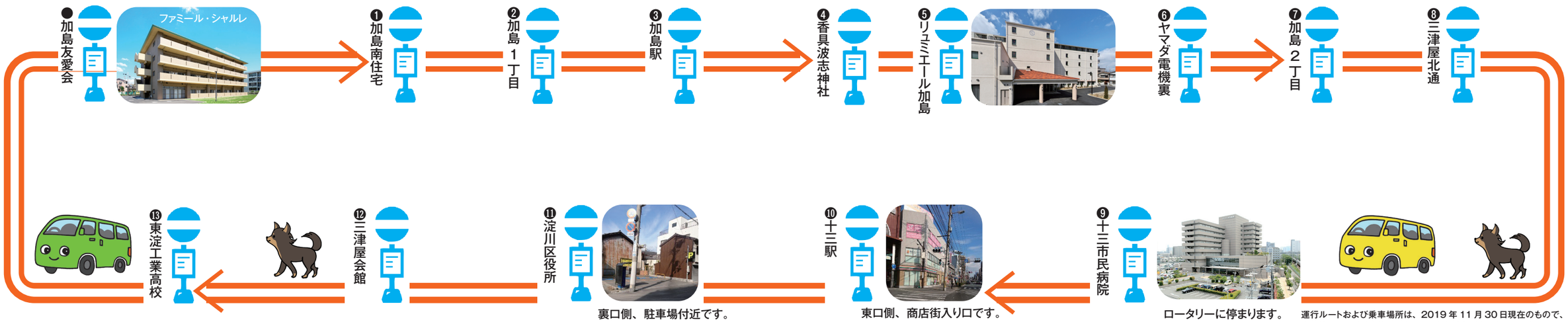
年齢構成



年代別男女別人数



運行ルート・乗車場所



運行ルートおよび乗車場所は、2019 年 11 月 30 日現在のもので、会員状況および道路状況に応じて加島友愛会が変更を行います。

今日も走る「交通弱者」の杖がわり アットホームな下町のバス 4年目迎える地域住民送迎事業

2017年2月に運行を開始した「加島・三津屋地域住民送迎事業」。みどり号（10席）と、きいろ号（6席+車イススペース）の2台が1日8便（土日祝・運休）走り、プロドライバーとボランティア添乗員が足の不自由なお年寄りなどを市民病院、駅、区役所などへ送り迎える。4年目を迎える「地域の人々による地域の人々のための」会員制交通支援の今…

加島のあかりちゃん

歩行器たたんでバスで通院 気持ちのうえでも助かってます

「リュミエール加島」（介護付有料老人ホーム）に2012年10月から入居している。現在、淀川区内にある大阪市立十三市民病院に2か月に1度、診察と薬をもらうために通うが、その際に「きいろ号」のお世話になる。

若いころ、駅のホームで電車に乗ろうとして転倒し背骨に大けがを負った。その後遺症でいまも背骨の古傷が痛み続け、歩行器を使わないと歩けない。送迎バス運行開始以前、通院はリュミエール加島の職員にお願いしていた。そのたびに職員に時間を融通してもらわなければならなかったが、今は時間が来ればバスで病院まで行けるので、気持ちのうえでも助かっている。

通院の日は8時45分発のバスに乗って9時過ぎに病院に着く。帰りは近くに住む息子さんが病院まで来て施設へ送ってくれる。通院以外には利用していない。買物などは週1回、リュミエール加島の職員がしてくれるし、体の辛さは変わらないが、職員の支援でできることが増えているそうだ。

「バスの乗りごこちはとてもよいですよ。運転手さんのほかにボランティアの助手さんもいて、歩行器をたたんで車に乗せてくれて、着いたら降ろしてくれて…みんな優しくて、ほんとに助かってます」と言って微笑んだ。

三浦誠子
（みうらせいこ）　送迎事業を利用して1年1か月。リュミエール加島開業年から入居、加島に来て8年目になる。最近、リュミエール加島に来て知ったオセロに夢中。

バスを乗り継ぎ、時には徒歩で 通院した日々も今は過去

住まいは加島2丁目。32年前に引っ越してきた。夫と2人だけの暮らし。6年前に脳出血で倒れ、今も左半身に麻痺が残る。加えて、喉に痰が詰まると下りなくなり、以来、週1～2回、耳鼻咽喉科に通っている。その他に3か月に1度、別の脳神経外科病院へも行く。

当初、利用していたコミュニティバス「赤バス」（大阪市等が運行）は、4年前に廃止に。その後の1年半は一般の路線バスを乗り継いで通院した。乗り換えるためのバスは1時間に1本しかない。極寒、酷暑、悪天候の日も停留所でバスを待った。雨が降ると余計にバスが遅れる。診察時間に間に合わないからと、杖をつきつつ歩いて行くこともあった。まさに「健康でなければ病院へ行けない」という皮肉な状況だった。だが、通院が苦になりつつあったころ加島友愛会の送迎バスの運行が始まった。知人から教えてもらってすぐに会員登録。今では病院の近くまでバスで行けるようになった。

区役所へ行くときも利用する。日々の買物はご主人が自転車で近所のスーパーに行ってくれる。そのご主人と一緒に送迎バスに乗ることもある。2人で商売をしてきたので国民年金だけしかないが、「贅沢せずに、お互いがお互いをかばい合うように暮らしています」と、はにかむように微笑んだ。

進藤末子
（しんどうすえこ）　送迎事業を利用して2年2か月。昭和の終わりから加島に暮らして気が付けば32年。最近は、自営業での勤めを辞めて、夫とのんびり家で過ごしている。

優良ドライバーの経験生かし お客さんの安全第一を心がける

阪神大震災でアパートが倒壊。仮設住宅を経て大阪市営加島南住宅に移り住んだ。当時の職業はトラック運転手。定年退職してからは団地の役員をしていた。役員引退後、知り合いの民生委員に「ヒマならちょっと来て」と声かけられ面接を受けたが、まさか添乗ボランティアになるとは思いもしなかった。

現在、週に3日添乗している。主な業務はお客さんの乗り降りの介助。荷物を持ち、手を引いて、乗車時に足が上がらない場合は腰を持ち上げ、後ろに回って転倒に備え、席に座るのを見届け、シートベルトをして、行く先を聞き、運転手さんにOKと声をかけて発車。降りるときは、荷物を先に降ろし、手すりを掴んでもらって、もう片方の手を握って…と。

車線変更や左折時など、自分の座席から目が届く左側の安全確認もおこなう。「午後の便では運転手さんが眠気を起こさないように声をかけたりもします」。かつてのドライバー経験が生きる。現役時には、無事故無違反で優良ドライバー表彰も受けたそうだ。

一番怖いのは「自転車の飛び出し。スマホをしながら左右確認せずにいきなり出てくる人もいますから」ということ。幸いこれまでのところ清さんが乗務したバスで事故はない。「これからも安全運行に努めながら続けていきたい」と言う。

清 隆夫
（せいたかお）　添乗ボランティアとして、2年2か月活動。主にみどり号へ乗車し、現在は週3~4回活動。団地で家族3人で暮らしている。最近は、孫の成長が喜び。

世話好き、話し好き、お年寄り好き 一人ひとりの思い大切に

送迎バス運行開始の1か月後、添乗ボランティアを始めた。現在は週3回添乗。ボランティアの報酬はパートの時給に比べれば少ないが、人と接するのが好きだし、お年寄りとおしゃべりしたり世話を焼くのも好きなので長続きしている。

よく利用する人は月20回くらい。1日に2～3回乗る人も。例えば、自宅近くから病院まで乗って、次のバスで病院から駅へ出て、帰りも駅から乗って帰宅する「時刻表のプロのような達人」もいるそうだ。他にもいろんなお年寄りがいる。「人の手を借りずに乗り降りしたいお婆ちゃんがいて『絶対持たんといてね』とお願いされることもあります」。石橋さんは乗務時に手帳を携行し、会員名の横に特徴や要望などをメモ、一人ひとりを尊重しながらお世話するよう心がけている。

困るのは乗り場ではない場所で手を挙げる人。窓から「ごめん、そこは止まられへんねん」と言って、所定の場所でバスを止め、降りて迎えに行くことも。降りた後で道を横断しなければならないときは手を取って付いていくこともある。

利用者のためには、乗降場所を増やしたいし、現行の循環ルートより往復ルートの方が乗り降りに便利な場所もある。制約があり、すぐに実現は難しいが、現状と個々のニーズの間の「潤滑油」の役割も果たす。

石橋領子
（いしばしりょうこ）きいろ号運行開始から添乗ボランティアとして2年9か月活動。現在は週3回活動している。夫と子供2人と暮らす主婦でもある。趣味はライブ鑑賞。

誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人
加島友愛会

〒532-0031
大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6101-6601 FAX.06-6308-7299
e-mail 1991@kashima-yuai.or.jp
URL http://www.kashima-yuai.or.jp

ホームページ
はこちら！

加島のあかりちゃん

❶かしま障害者センター

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6308-7206 FAX.06-6308-7299

むつみ（生活介護事業・就労継続支援事業 B 型）
e-mail mutsumi@kashima-yuai.or.jp

地域生活支援部（障害者グループホーム）
e-mail kashima-chiikiseikatu@kashima-yuai.or.jp
●加島苑●セッション●チューリップ●あさがお
●カナリヤ●うぐいす●ひのき●トレフル

Link
（就労移行・就労継続支援事業 B 型・自立訓練・就労定着支援）
TEL.06-6308-7210 FAX.06-6308-7220
e-mail link@kashima-yuai.or.jp

障害者就労支援事業部
TEL.06-4805-2485 FAX.06-6308-7220
e-mail kashima_jc@kashima-yuai.or.jp

“COCOLO” 相談支援センター
（地域活動支援センター（生活支援型）・特定相談支援事業・一般相談支援事業）
TEL.06-6308-7209 FAX.06-6308-7220
e-mail cocolo@kashima-yuai.or.jp

❷ル・プラス（就労継続支援事業 A 型）

〒561-0843 大阪府豊中市上津島 1 丁目 4-3
TEL.06-6151-3701 FAX.06-6151-3810
e-mail re.plus@kashima-yuai.or.jp

❸加寿苑　特別養護老人ホーム

●特別養護老人ホーム●ショートステイ●診療所
●ケアプランセンター●デイサービスセンター
〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 34-8
TEL.06-6305-0711 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen@kashima-yuai.or.jp

淀川区西部地域包括支援センター
TEL.06-6305-0737 FAX.06-6305-0738
e-mail yodogawa-seibu@kashima-yuai.or.jp

❹アンダンテ加島（施設入所支援・生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 36-46
TEL.06-4806-6780 FAX.06-4806-6781
e-mail andante@kashima-yuai.or.jp

❺加島希望の家（生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 49-21
TEL.06-6390-5666 FAX.06-6302-2551
e-mail kibou@kashima-yuai.or.jp

❻リュミエール加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-35
TEL.06-6308-7788 FAX.06-6308-7799
0120-087-322
e-mail lumiere@kashima-yuai.or.jp

❼ヘルパーステーション　トレフル

〒 532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-34
高齢者部門● TEL.06-6308-7797
FAX.06-6476-7185
e-mail trefle2@kashima-yuai.or.jp
障害者部門● TEL. FAX.06-6476-7185
e-mail trefle@kashima-yuai.or.jp

❽サービス付き高齢者向け住宅

ファミール・シャルレ
〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 38-20
TEL.06-6305-5750 FAX.06-6305-5756
0120-991-707
e-mail famille@kashima-yuai.or.jp

企画　法人機関誌検討委員会
蓬田高広　西岡剛
真嶋広匡　谷口哲夫
十倉伸二　森本亜紀彦
安間ゆか　橋本三千代
芝谷佳代子　内田信也
編集協力　新島洋
デザイン　桐田博子
印刷　（財）浪速振興会